

全国美術館収蔵品サーチ「SHŪZŌ」 ロードマップ

2020年度
(R2)

文化庁アートプラットフォーム事業にてデータベース構築

文化庁のアートプラットフォーム事業の一環としてSHŪZŌを構築。2021年3月、ウェブサイト「アートプラットフォームジャパン」(APJ)上でベータ版公開開始。国際発信を目的に、英語でのデータアクセス向上を目指す。収録対象は、**日本の近現代美術作品**に限定。

フェーズ
1

成果

(2023年3月末)



美術館等施設

(累計)
165館



収蔵品

(累計)
約16万件



画像

(累計)
約10%

2022年度
(R4)

国立アートリサーチセンターへのデータベースの継承、持続的運用の確立

2022年度 (R4)

SHŪZŌ事業が文化庁アートプラットフォーム事業から独立行政法人国立美術館国立アートリサーチセンター(仮称)設置準備室情報資料グループに継承される。

2023年度 (R5)

APJのウェブサイト全体をリサーチポータルサイトとしてリニューアル。2023年9月26日、本公開開始。

2024年度 (R6)

2024年12月10日、収録範囲を**国内外の近現代美術作品**に拡大。

2025年度 (R7)

安定的な情報更新体制の確立。美術館に収蔵される、近代以降の国宝・重要文化財へのデータアクセス実現。

フェーズ
2

成果

(2026年3月末)



美術館等施設

(累計)
223館



収蔵品

(累計)
約47万件



画像

(累計)
約19%

2026年度
(R8)

恒常的な運用へ、協力美術館等施設の拡充、作品画像のさらなる充実

近現代美術作品を所蔵する美術館等施設(推定**1244館***)のうち約25%、**300館**の収蔵品情報公開を目標とする。恒常的なデータ拡充を可能にする運用体制の確立を目指す。

*令和3年度文部科学省社会教育調査「博物館の資料の状況」による。「近代美術資料」を所蔵する博物館・美術館数の合計。

フェーズ
3

目標



美術館等施設

(累計)
300館



収蔵品

(累計)
約70万件



画像

(累計)
約70~80%

2030年度
(R12)

